

平成27年度男子ユニバーシアード日本代表チーム 強化試合

開催場所: **国立代々木競技場第2体育館**

試合区分: **No. 102 男子**

期 日: **2015(H27)年5月17日(日)**

主審: **清水 幹治**

開始時間: **16:00**

副審: **緒方 崇、加藤 誉樹**

終了時間: **17:34**

ユニバーシアード日本代表候補 ○ 79	24 -1st- 11 25 -2nd- 13 14 -3rd- 25 16 -4th- 20 -OT1- -OT2- -OT3-	● 69	インターナショナルジャパン
---	---	---	---------------

ユニバーシアード日本代表候補とインターナショナルジャパンチームの強化試合2試合目。スタートダッシュに成功したユニバーシアード日本代表候補をインターナショナルジャパンチームが終始追いかける展開。前半は高さで勝るインターナショナルジャパンチームに対し、速攻やアウトサイドのシュートが高確率で決まり大幅にリードしたユニバーシアード日本代表候補であったが、後半になるとシュートの決定率が落ち、インターナショナルジャパンチームにストロングポイントのインサイドを攻められ、その点差を詰められる。それでも、#2満田や#14ベンドラメなどが勝負どころでシュートを沈め、逆転には至らせない。結果、79-69と、ユニバーシアード日本代表候補が勝利し、全勝で強化試合を締めくくった。

第1ピリオド、高さで勝るインターナショナルジャパンチームに対し、ユニバーシアード日本代表候補は、#14ベンドラメを起点とした速攻や#17杉浦や#22原などの3Pシュートなどで得点を重ね、開始5分で点差を二桁にまで広げる。たまたずタイムアウトを請求したインターナショナルジャパンチームは、その後、#8馬などが、積極的にシュートを狙っていき相手に喰らい付いていくも、その差は縮まらない。24-11のユニバーシアード日本代表候補が13点リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド、開始からユニバーシアード日本代表候補が勢いが止まらず、#7澤邊の3Pシュートや#45頓宮のバスケットカウントなど、インターナショナルジャパンチームとの差を広げていく。インターナショナルジャパンチームは#12ジェニパブなどがリバウンドを積極的に取りにいくものの、ハンドリングミスなどが目立ちターンオーバーを連発。その間にユニバーシアード日本代表候補は#14ベンドラメの外角のシュートや#2満田のドライブなどでテンポ良く加点。49-22とユニバーシアード日本代表候補が大幅にリードし、試合を折り返した。

第3ピリオド、追いかけるインターナショナルジャパンチームは#11ビ、#6万などが積極的にインサイドにアタックし、点差を詰めていく。立て直しをはかりたいユニバーシアード日本代表候補であったが、相手チームのプレッシャーを前にタフショットを連発。その間にインターナショナルジャパンチームは速攻やゴール下などで連続して得点を沈め、点差をさらに詰める。63-49とインターナショナルジャパンチームがビハインドを14に減らし、最終ピリオドへ。

第4ピリオド、流れに乗るインターナショナルジャパンチームは#11ビが3Pラインの後方からシュートを決めると、#12ジェニパブのダンクや#9イッサの速攻などが決まり、点差が一時5点にまで縮まる。タイムアウトを請求したユニバーシアード日本代表候補は、その後#6馬場、#2満田が連続でジャンパーを沈めると、堅いディフェンスでゴールを守りきったユニバーシアード日本代表候補がそのまま逃げ切り勝負あり。79-69と10点差でユニバーシアード日本代表候補が勝利し、強化試合を終えた。

担当者: 森本 悠馬(全日本大学バスケットボール連盟)